

Book Review

《眼科臨床エキスパート》 緑内障治療のアップデート

吉村長久, 後藤 浩, 谷原秀信 シリーズ編集 杉山和久, 谷原秀信 編

医学書院の《眼科臨床エキスパート》シリーズに新たに『緑内障治療のアップデート』が加わった。金沢大学の杉山和久教授ならびに熊本大学の谷原秀信教授という現在の日本の緑内障学を牽引する最も脂の乗った先生方の編集によるものである。昨今は、医療のスタンダーダイゼーションの波が押し寄せ、さらにはエビデンスに基づいた医療の実行が世界的な規模で求められるようになってきている。わが国でも今後、眼科分野においても新しい診療ガイドラインの策定が精力的に行われるようになると思われる。

そのような流れの中で、緑内障治療に関する現時点における最もアップツーデイトで新しいスタンダード、いわゆる、PPP (preferred practice pattern) につながる流れを示唆する教科書が本書であると考えている。ただ難しい文献を並べて、それを云々する内容ではない。より積極的に、この手技・治療はこうあるべきだということを主張しつつ、その根拠を文献によってしっかり押さえてある。

具体的には、緑内障病型ごとにその対処法と実際の点眼処方例が商品名で挙げられている。どの時点で手術治療を考慮するかについても具体的に記載されている。イラストもきれいで、写真の解像度も良くクオリティが高い。相当に吟味されていると感心する。特

にチューブシャント手術の項目は、これまでの教科書ではなかなか詳細な解説はなかったが、テクニックも詳しく述べられている。

また、今後の緑内障手術の傾向として microinvasive glaucoma surgery (MIGS) が注目されているが、その一端として、全周 suture トラベクトミーなども収載されており、大変参考になる。さらには、手術手技はいくらイラストや写真で解説してもうまく伝わらないものだが、Web 動画でも閲覧できるという優れものである。

眼科初心者、専門医をめざす人はもとより、現在の緑内障治療は少し前とはずいぶん違ってきていることを、シニアのドクターにも本書で確認していただきたい。ただ、強調したいのは、単にハウツーだけに関心を持つのではなく、なぜそうなのか、という本書が訴えている根本のところも押さえていただければ幸いである。

東邦大学医療センター大橋病院教授・眼科学
富田剛司

B5・頁 424 2015 年 10 月
定価：本体 17,000 円＋税
[ISBN978-4-260-02379-5] 医学書院刊